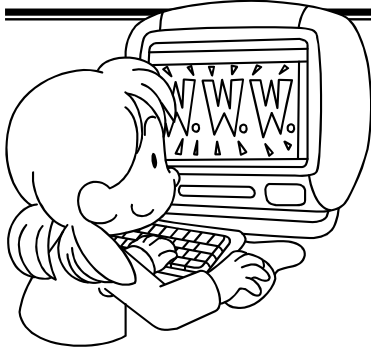


六つの華だより

糸魚川市立磯部小学校
平成 26 年 9 月 25 日 (水) No. 8
E-mail isobesho@itoigawa.ed.jp
URL <http://www.itoigawa.ed.jp/isobesho/>



美しい日本海 豊かな自然 子どもたちの笑顔いっぱい磯部小



インターネットの時代

校長 高橋 雅史

コンピュータがこれほど普及する以前には、学校で調べ学習をする場合は、図鑑や年鑑、学習用の百科事典等の様々な図書を使うことがほとんどでした。現代の学校教育での調べ学習は随分様変わりし、インターネットを利用した調べ学習がとても盛んになってきています。

確かにコンピュータやスマートフォンは大変便利な道具であり、インターネットは最新の情報を得るためにとても迅速で手軽な方法であることは間違いありません。しかし、子どもたちには、コンピュータやスマートフォンはあくまでも道具の一つであり、インターネットはあくまでも調べる方法の一つであることをきちんと認識させる必要があると思います。「スマホやコンピュータがあればなんでもできる」「インターネットがあるから本などいらない」、そんな“コンピュータ万能主義”のような偏った考え方に陥らないようにすることが大切だと思います。

ちょうどインターネットが学校教育で使われ始めた今から 10 年ほど前のことです。日本の米作りについてのインターネットを利用して調べる社会科の学習を参観する機会がありました。私はある子どものレポートを見て驚きました。彼が取り上げたテーマは「カルガモ農法」でしたが、まるで「カルガモ農法が日本の米作りの全て」であるかのようなまとめ方でした。理由を聞いたら、「クリックしたら、たまたまカルガモ農法のページに当たったので、そのまま使いました」という答でした。他にも同じようなまとめ方をしている子どもたちが何人もいました。

教科書で学習したり図鑑などで調べたりする時、まず全体像を学ばせてから、様々な事例について学んでいきます。また、教科書も図鑑もそれぞれの専門家が執筆しているわけですから、発達段階に合わせて学ぶには最適の図書です。「カルガモ農法が日本の米作りの全て」のような偏った認識に至ることなく、「環境によい米作りの一つの例としてのカルガモ農法」を学ぶことができます。図書で調べることは大切な学習の進め方、子どもたちに必要な学習方法です。

インターネットは確かに、便利で、迅速で、手軽な方法ですが、コンピュータの画面上に出てくるものは、知識や知恵ではなく一面的な情報にすぎません。人が調べた情報を画面で見て、分かったように錯覚してしまうことは、とても危険なことだと思います。また、そこから得る情報も玉石混淆、ひどい場合には科学的でなかったり常識を疑わせたりするような情報・意見が載っていることさえあります。

「コンピュータがあれば何でもできる」、「インターネットでどんなことでもわかる、調べられる」、それはとても大きな勘違い、とても大きな間違いです。そのことを私たち大人が認識した上で、子どもたちにコンピュータやスマートフォンを使わせインターネットを利用させることが何より大切なことだと思います。



親善陸上大会を 終えて



糸魚川市親善陸上大会を終えて、精一杯やりとげた子どもたちの感想文を紹介します。



【五年 池亀 凜々華】

九月十七日に陸上大会がありました。私は、百メートル走を走りました。練習の記録は、二十一秒台でした。練習の最初にアンプをして、足を高く上げる練習をしました。フロートなどの練習もいっぱいしました。

本番の大会では、十九秒三八でした。走っている途中で、となりのレーンの人々が、私のレーンに入ってきてびっくりしました。だけど、一生けん命走りました。練習より速くなっていてよかったです。

走り終わった後、ほかの人の応えんをしました。いっぱい応えんしたので、のどがいたくなりました。

最初は出るのがいやだと思っていたけど、みんなが出ると言ったので、私も一回出てみようと思いました。そして出場しました。出てみたら、とてもいい体験でした。来年は、はば跳びに出たいです。

【六年 小島 翼】

陸上大会で一五〇〇メートル走とリレーに出ました。

一五〇〇メートルはとても苦しかったです。根性を出し切りました。自分でもよくがんばったと思うし自己ベストも出せたのでよかったです。

あと一周だという合図のかねの音を聞くと、意識がうすれそうになったけど走り切りました。

【五年 小竹 裕太】

九月十七日、親ぜん陸上大会がありました。

夏休みからずっと練習してきました。がんばったことが二つあります。

一つ目は、二百メートル走です。練習の時、一回だけばかりでした。その時のタイムは、約四四秒でした。本番は組で最下位だったけど、約三七秒の自己新記録が出て、よかったです。

二つ目は、四×百メートルリ

リレーは一組目でした。本気で走りました。足がもつれて言うことをききませんでした。なんとか生君に渡すことができました。

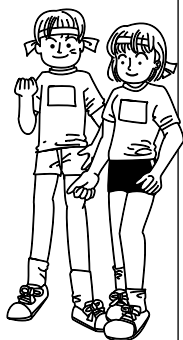
卒業しても、この思い出は忘れません。また、がんばったこの気持ちを五年生に受け継いでほしいです。この大会では、一人一人ががんばったと思います。

レーです。体育の時間にはかったタイムは、約一分十八秒でした。大会では、一分九秒台でした。予選で落ちてしまいました。自分が、自分たちの新記録が出てよかったです。

最初の大会はあまりよい結果にならなかったけど、新記録が出てうれしかったです。だから、来年はくいのない結果にしたいです。

【六年 満城 瑠衣】

今日、陸上大会がありました。私は、百メートル予選で、一組の四レーンを走りました。とてもきんちょうしました。そして、記録は十八秒六二で自己ベストが出せてとてもうれしかったです。練習では十九秒台だったのですが、十八秒台になってとてもよかったです。百メートル走が終わったら、他のみんなを応援しました。リレーもみんな一生懸命走っていて、とてもかっこよかったです。走り高跳びも志桜さんも叶佳さんも二位と五位で入賞できてよかったです。八百メートルや一五〇〇メートルもすぐがんばっていて、すごかったです。自分の中の全てを出し切って、本気で走れた、くいのない陸上大会になってよかったです。



六年生の山崎志桜さんが、四四二名の選手を代表して、堂々とさわやかに選手宣誓をしました。



宣誓

今日、ここに四四二人の糸魚川市の仲間が集まり、競い合います。私たちは競技を通して、他校の仲間との友情を深めます。

今日は、これまで応援してくださった人たちに感謝し、また、共に練習してきた仲間と励まし合いながら、全力で競技します。

平成二六年九月十七日

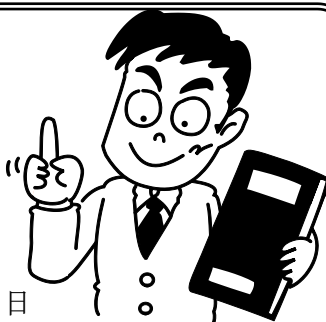
選手代表

糸魚川市立磯部小学校

山崎 志桜

校長室から

苦しいからこそ “力(ちから)”になる



5・6年生は、夏休みから練習に取り組み、17日(水)に行われた糸魚川市親善陸上大会に参加しました。また、20日(土)には4年生も加わり、金管バンドとして「奴奈川・大うす祭り」にも参加しました。陸上大会直後ということで十分な練習をするには時間が足りませんでした。心をこめた演奏を披露してくれました。

陸上も金管練習も寝転んでテレビを見ていたり、ゲームをしたりすることに比べれば、“楽(らく)”なことではありません。走り続ければ息は苦しいし、いい音を出し続けるのはすぐには出来ることではありません。

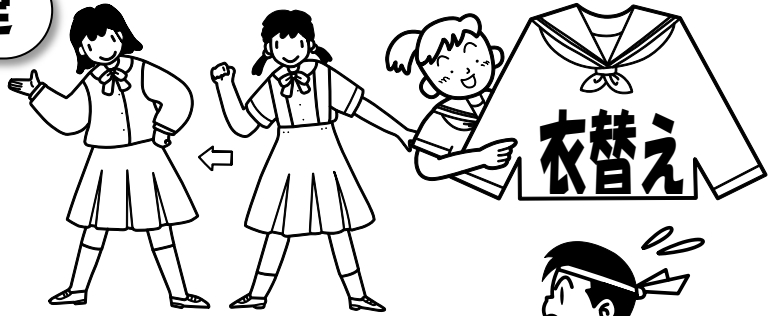
最近の世間の風潮に、「好きなことを好きなようにすることが自分らしさ」、「楽しいことを自分の思うようにできることがよいこと」、「新しいIT機器を持つことが素晴らしいこと」、そんなどちらかと言えば安易な流れがあるように感じます。その意味では、積み重ねなければならない陸上や金管の練習と大会や演奏の場は安易なこととは対極に位置しているのではないのでしょうか。

18日の糸魚川市親善陸上大会、20日の大うす祭りでの金管演奏、終わった後の子どもたちの顔は、とても充実していました。楽で安易な時間の過ごし方では得られない「やりとげた」という達成感に溢れていました。

「苦しいからこそ力になる」、子どもたちの成長には、とても大切な考え方、大事にしていかなければならない言葉だと思います。

10月の主な行事予定

- 1(水) 全校朝会
- 2(木) 上越地区陸上競技大会
- 3(金) クラブ活動
- 6(月) 校内マラソン大会
- 7(火) 糸魚川市科学研究発表会
- 8(水) 児童朝会
- 9(木) 人権啓発キャラバン隊来校・子ども貯金日
- 10(金) 災害に伴う児童引き渡し訓練・校内マラソン大会予備日
- 15(水) 音楽朝会
- 16(木) 委員会活動
- 17(金) 文化祭前日準備(1～4年生；給食後下校 5, 6年生；午後準備手伝い)
- 18(土) 平成26年度文化祭
- 20(月) 振り替え休業日
- 22(水) 発表朝会
- 23(木) 歯科検診
- 29(水) 6年生修学旅行(～30日まで；東京方面)
- 31(金) 能生地域小中音楽発表会(マリンドリーム能生)



9月の磯部小学校

夏休みの自由研究で取り組みました。先生から講評をしていただき、子どもたちが研究の進め方を指導した。発表の進め方を指導した。発表の進め方を指導した。



金管バンドは「奴奈川・おおうす祭り」に参加し、演奏を披露しました。